

姫路市立美術館 記念講演会(公開講座 アートゼミ)

1910-20年代の松方とマティス

国立西洋美術館リニューアルオープン記念展と姫路市立美術館「國富奎三コレクション」マティス作品

昨年度、姫路市立美術館所蔵のアンリ・マティス《ニース郊外の風景》(1918年、國富奎三コレクション)がこれまで行方不明とされてきた松方コレクションの《森の中に横たわる二人の女》と図像が一致することが判明。本年度、東京の国立西洋美術館リニューアルオープン記念展「自然と人のダイアローグ フリードリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」(会期:2022年6月4日~9月11日)に、特別出品されました。これを記念し、姫路市立美術館では、マティス研究の第一人者であり、国立西洋美術館長の田中正之氏による講演会を開催します。

演題: 1910-20年代の松方とマティス

国立西洋美術館リニューアルオープン記念展と姫路市立美術館「國富奎三コレクション」マティス作品

内容: 国立西洋美術館設立のもととなった松方コレクションは、1916年から1927年頃にかけて実業家の松方幸次郎が収集したもので、そのなかには当時のフランス美術界を代表する画家アンリ・マティスの作品も含まれていました。残念なことに現在国立西洋美術館にはマティスの油彩画は一点もありませんが、松方旧蔵の貴重な作品が姫路市立美術館に所蔵されています。マティスは、1910年代の終りから20年代にかけて、作品の様式も主題も大きく変え、それはちょうど松方が西洋美術の大コレクションを形成している時期と重なります。この講演では、松方コレクションの成り立ちと収集の意図に触れつつ、同時期のマティスの作風の変化とその意味についてもお話しし、姫路市立美術館所蔵の《ニース郊外の風景》を読み解きます。



講師: 田中正之氏 (独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館長)

プロフィール

田中正之(たなかまさゆき)国立西洋美術館長(2021年4月~)

1963年東京生まれ。専門は西洋近現代美術史。1990年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了後、ニューヨーク大学美術研究所で学ぶ。1996年より国立西洋美術館研究員、『マティス展』(2004年)、『ムンク展』(2007年)などを担当。2007年に武蔵野美術大学造形学部准教授、2009年に教授。2011年より同大学美術館・図書館館長、造形研究センター長も務めた。主著に『近代の都市と芸術7 ニューヨーク—錯乱する都市の夢と現実』(竹林舎、2016年)、『現代アート10講』(武蔵野美術大学出版局、2017年)、『西洋美術史』(美術出版社、2021年)。

日時:2022年8月7日(日) 14時00分~15時30分(開場13時30分)

会場:姫路市立美術館 講堂(〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-25)

定員:50名 事前予約制

申込締切:2022年7月24日(日) 往復はがきもしくは当館HP イベントページにてお申込みください。(ハガキで申し込まれる方は①住所②氏名③電話番号④メールアドレスを書いてお申込みください。24日必着。)

*抽選結果の発表は7月末日にハガキで申し込まれた方は郵送、HPで申し込まれた方はメールでお知らせいたします。当日は、当館から郵送するハガキまたは当選通知メールを印刷したものを必ずご持参ください。

講演会に関するお問い合わせは、姫路市立美術館(079-222-2288)まで
姫路市立美術館 担当:谷口依子 〒670-0012 兵庫県姫路市本町68-25
Tel. 079-222-2288 / Fax. 079-222-2288
e-mail: yoriko_taniguchi@city.himeji.hyogo.jp